

＜習志野市発達支援施策ワークショップ＞ ロジック・モデルと指標の検討について

源 由理子

明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科

2015年7月21日

本日の進め方

- ワークショップの目的について
 - 協働型の政策評価の特徴
 - ロジック・モデルと指標をどのように使っていくのか
- ワークショップ
 - 発達支援施策のロジック・モデルを使い指標を協働で検討する

今、習志野市発達支援施策の分野 で始まっていること

- 発達支援施策のロジック・モデルの作成
 - 政策体系図:「政策の目的—手段」
 - 何を、どのような手段(作戦)で実現しようとしているのか
- 関係者が協働でロジック・モデルを作成
 - ワークショップの実施(計3回)
 - 意見交換、対話の中からより効果的な作戦をともに検討
- ロジック・モデルを使い継続的な評価を実施(今後の予定)
 - PDCAにそって継続的に施策を見直す

今、習志野市発達支援施策の分野 で始まっていること

- 新しい“評価”の仕組みの導入
- “評価”とは何か
 - Evaluate: “価値”を“外へ”
 - 価値を品定めする
 - 改善のための手段

“評価は社会の改善活動である。”
(Scriven)

政策がめざす地域の価値を実現するために・・・

- 地域のめざす姿(価値)は、これでいいのだろうか
- この活動は本当に成果をあげているのだろうか
- もっと良くするにはどうしたらいいのだろうか

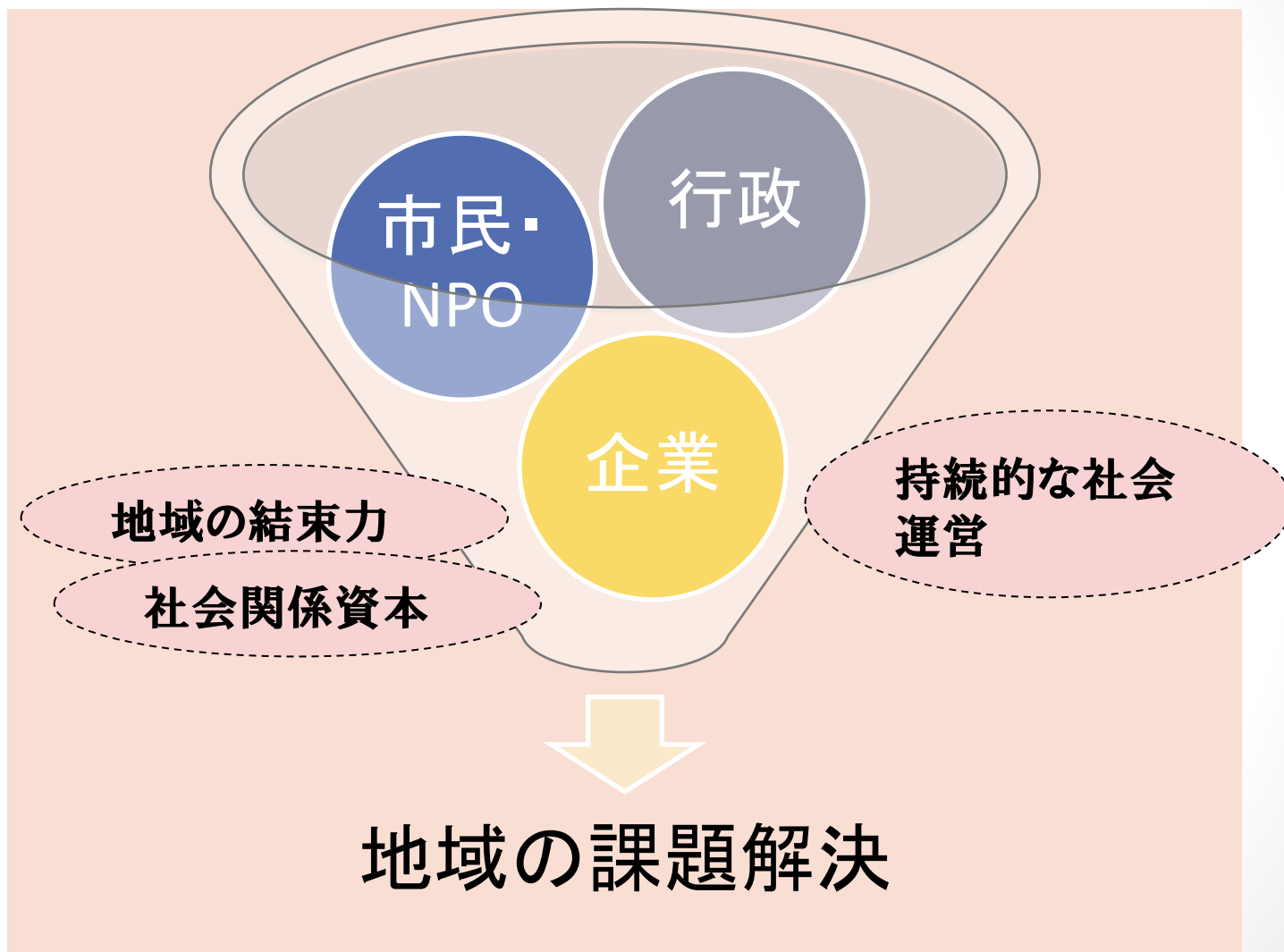
成果・結果の良し悪しや、予算の使い方を評価しているだけでは、政策の改善に必ずしもつながらない。



本来の「政策評価」の実施へ

市民と行政の「協働」

地域ガバナンスの実現



「協働型の政策評価」の特徴

- 改善のためには、「評価し続けること」が大切です
 1. 政策自体の質を評価し、向上させること
 - この政策の設計はこれでいいのか
 - 設計(目的や活動の組立=ロジック・モデル)をどのように改善したよいか
 2. 政策に示された活動の質を評価し、向上させること
 - 実施中に何か問題はないか
 - 活動をどのように軌道修正したらよいか

ロジック・モデルの例

出所：北大路(2015, p22)

最終アウトカム：
目指すべき社会の状態

生活習慣病のリスクが減る
(指標：基準値内血圧の実現)

中間アウトカム：
最終アウトカムの実現
に貢献する作戦の目的

標準体重になる
(指標：BMI)

摂取量が減る

消費量が増える

基礎代謝量が増える

- ・晩酌をやめる
- ・1日の摂取量を1800カロリー以内とする
- ・(などなど)

- ・週2回1日1万歩散歩する
- ・(などなど)

- ・ジムで筋トレをする
- ・(などなど)

活動の結果
(アウト
プット)

具体的活動

活動の質の評価

政策の質の評価

評価を協働で行うための方法

- 施策を一緒に実施する市民／関係者ととともに評価を行う

⇒

1. 評価のワークショップの実施

- そのために必要な情報やデータをきちんと集める

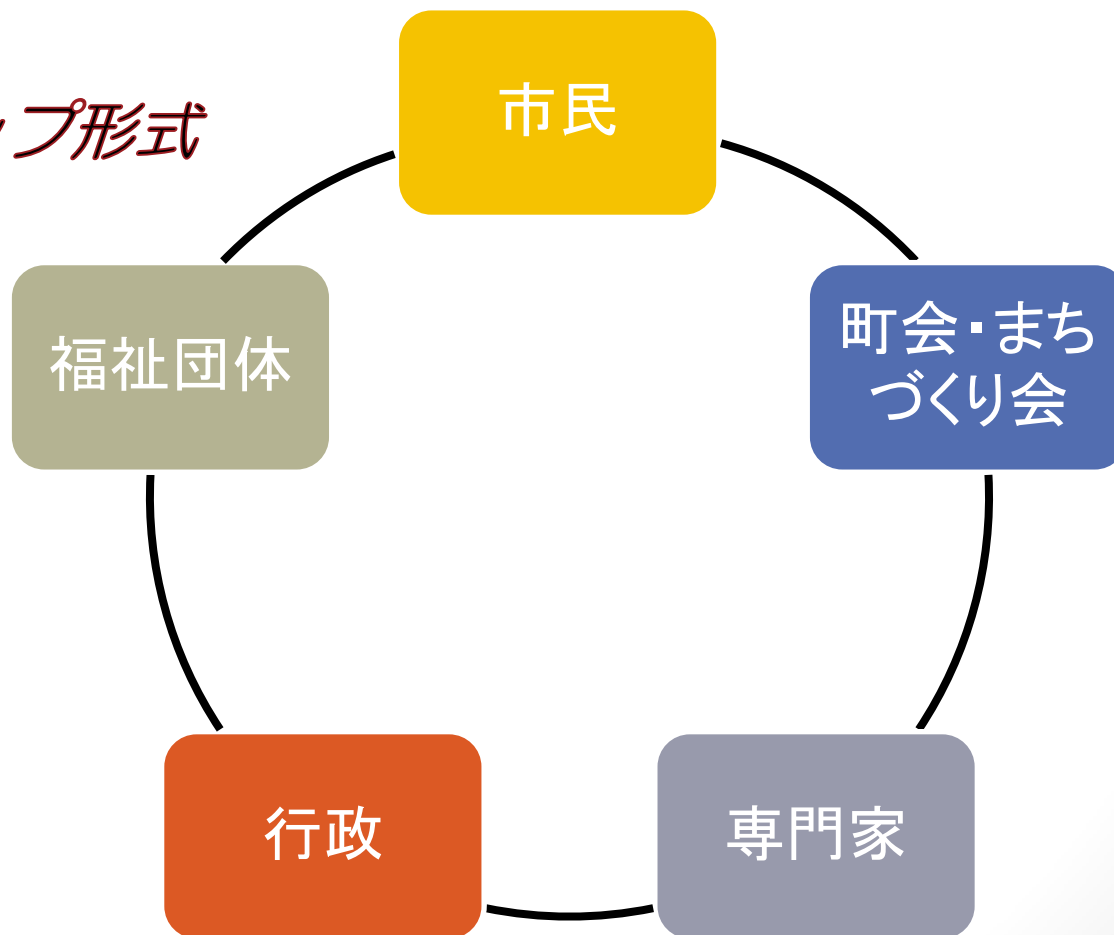
⇒

2. アンケート調査、行政データの整理

指標

評価のワークショップとは

ワークショップ形式
の活用



ワークショップとは

- ワークショップ
 - 共同作業場
 - 場を共有する
- 異なる経験と立場の協働者間の「対話」をとおして..
 - 相互に学習し合う
 - 自分の考えを再形成する
 - より良いアイデアを探る
 - 信頼関係が構築される
 - より積極的に関わることができる

指標の検討について

- 行政指標→通常、行政の業務の中で収集するデータ
 - 出前講座実施回数、子育てサロン利用者数
 - 地域のイベント数、相談件数



多くは手段レベルの指標

- 社会指標→通常、社会調査(アンケート調査)で収集するデータ
 - 市民の**現状**(自主防災組織と消防団の連携は?)
 - 市民の**意識**(水道水に対する意識は?)
 - 市民の**知識**(発達支援に関する理解度は?)
 - 市民の**行動**(エコバックの使用頻度は?)など、

行政データには反映されない/にくい市民の情報



多くはアウトカムレベルの指標

指標を設定する

- 以下の点に気をつけてみる
 - 具体性：測りたい事象は具体的にはどのようなことをさすのだろうか？
 - 先見性：測りたい事象はどのように変化していきそうだろうか？
 - 現場の勘：指標は調査価値のある内容だろうか？



多様な関係者が一緒に検討することが有効（協働ワークショップ）

発達支援施策の評価(改善)のサイクル

